１１月定例会資料　　平成１８年１１月１４日　　津田　順司

# 有料老人ホームに関するアンケート調査結果の冊子化支援

## １．顧客の組織概要

・ ＮＰＯ法人「特養ホームを良くする市民の会」の町田市在住の会員を中心とする有志１８人（代表　鈴木勝　氏）

・ これまでの出版活動

２００１年：　「町田市内の特養ホーム・訪問調査の報告」

２００３年：　「町田市の有料老人ホーム・入居の前に２０のチェックを」

２００４年：　「高齢者の介護と福祉」町田市高齢者福祉ガイドブック－アンケート調査の報告・在宅編

２００６年：　「有料老人ホームの賢い選び方」　←今回の受注物件

## ２．受注の経緯

・ ＳＩＴＡは、上記２００４年のアンケート調査の冊子化を支援した。その実績が非常に高く評価され、今回の受注に結びついた。

・ ２００５年１２月初旬より対応を開始し、翌年５月末に最終ファイルを送付納入し、7月下旬発刊された。

・ 受注額　５万円

## ３．調査対象

・ 東京都ならびに神奈川県に在る新設予定を含めた計五百五施設（東京都二百六十三、神奈川県二百四十二）を対象にアンケートを実施。百五十七施設から回答を得た。

・ 調査項目は、施設の概要や費用だけではなく、医療機関との連携状況、情報開示の程度などソフト面も重視されたものになっている。

## ４．作業体制

1. アンケート回答（約６０施設）の入力と、冊子フォーマットへの変換作業・・加藤、胡桃、中川、津田
2. 事業所評価（約５００施設）のためのソート作業・・津田
3. 手書きされた解説文章のＷＯＲＤ化作業・・中川
4. 全体とりまとめ・・中川
5. 技術指導・・石渡

## ５．作業方法

先方「新沼さん」とは、月１～２回程度の打合せとアンケート回答用紙の受け渡しを行った。また、中川と新沼さん間で４０回程度のメール交換を行った。

グループ内の集合打合せは２回程度。後はメール交換で済んだ。

## ６．感想・反省点など

・ 「手書きされた解説文章」のＷＯＲＤ化作業において、一部の原稿をスキャナーによるＯＣＲ機能を使って入力した。解読率５０％以下であったが、それなりに作業効率はあがったと思われる。

・ アンケート回答の入力作業に関し、最終的な印刷フォーマットを大まかに統一しただけで、各人がほとんど独立に作業を行ったため、見かけ上の一貫性が確保できない事態が発生した。また、我々の側では、特段の入力ミス防止策を講じていなかったため、入力ミスの発生を防ぎ得なかった。これらの問題点の修正は、新沼さん１人にお願いする結果となったことを反省する。